

科目名	マスメディアにおける音声表現と音声表現者の歴史	
担当者	松平 定知	
配当学期	春学期	
単位	2単位	
授業概要	<p>日本で放送が始まったのは1925・3・22・09・30であるが、私は69年から07年まで38年間をNHKアナウンサーをしていた。退職後、4年になるが、こうして、早稲田の教壇に立ちながらも、今も要請を受けて、放送現場に立ち続けている。</p> <p>もともと、放送は過去言葉の音声化から始まったのだったが、放送は書き言葉の音声化から始まったのだったが、</p> <p>「生涯現役」の私は、その「音声表現」については聊かの思いがある。音声表現と音声表現者の歴史をたどることで、「音声表現」の明日を展望する。</p>	
授業の到達目標	「音声表現」についての正しい理解	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1)オリエンテーション (2)日本人の国語教育の歴史・標準語と共通語 (3)放送現場[草創期] (4)放送現場[戦前から戦中]・玉音放送 (5)放送現場[戦後]から「今日」 (6)ゲストスピーカー (7)放送博物館見学（プロジェクト期間） (8)音声表現論（語り言葉三原則・ほか） (9)音声表現論（冗長率と伝達力の関係、ほか） (10)音声表現論 (11)「聞く」ということ。 (12)「中継する」ということ。 (13)「読む」ということ（ニュース原稿を読む） (14)「読む」ということ（ナレーション原稿を読む） (15)「読む」ということ（朗読） 	
教科書	特にありません	
参考文献	その都度紹介	
成績評価方法		評価基準
	試験・レポート 30%	期末にテーマを提示し、そのテーマに沿ってレポートを書いて貰う（1200字程度）

	平常点評価 10%	毎授業の参加態度、参加姿勢、遅刻の程度と回数、毎授業の終了時に出してもらった感想文の出来。
	その他 60%	出席を重視する
関連 URL	特になし	
備考	特になし	